

あおぞら21



- カルチャーセンター震災復旧工事全会一致で可決(11月会議) … 2
地方自治法施行70周年記念式典開催される …………… 3
「恐竜の郷」としてのまちづくり — 北海道むかわ町立穂別博物館 — …………… 4

表紙：正代関、甘木仮設団地を慰問(12月1日)

11月定例会

29年12月15日

No.123

熊本・みふね町議会

カルチャーセンター震災復旧工事 全会一致で可決

11月会議を6日開催した。カルチャーセンターに係る工事請負契約1件を審議採決した。

11月会議で決まったこと（11月6日）

議案 号数	簡易議案名	概 要	質疑・討論 の有無	採決 結果
議案 39	工事請負契約の締結について	カルチャーセンター震災復旧工事	無	全会一致で 可決

第 6 回災害復興支援特別委員会報告

10月30日に開催された災害復興特別委員会で、執行部から中原団地の現状と今後についての報告があった。

■ 中原団地復旧工事関係の現状（10月30日 委員会報告分）

工 事 名	発注状況等（予定を含む）
大規模盛土滑動崩落防止工事関係 1	発注済・工事中
大規模盛土滑動崩落防止工事関係 2	12月発注予定
災害関連地域がけ崩れ対策事業関連	国との協議中のため未定
中原団地災害復旧工事関係（建築）	発注済・工事中
中原団地災害復旧工事関係（外構・設備）	12月発注予定
住宅解体工事	H30年度発注予定
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策工事（県）	H30年1月発注予定

※今後の予定

災害復旧工事・住宅復旧工事終了後、長期避難指示解除
長期避難指示解除後、住宅への入居予定



中原団地がけ崩れの状況



中原団地の様子

地方自治法施行70周年記念式典開催される

御船町議会議員 田端幸治

11月20日東京国際フォーラムにて、天皇皇后両陛下をお迎えし地方自治法施行70周年記念式典が開催された。

地方自治功労者として、自らの創意工夫により優れた施策を実施した市町村・公務に精励し、優れた行政施策等当該団体の自治行政に発展をもたらした個人に対し表彰が行われた。来賓として安倍内閣

総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官の挨拶がなされた。

地方自治法は昭和22年に施行され今日まで地方自治の根幹を成してきた。

各地方自治体においては昭和28年から昭和36年にかけて昭和の大合併、平成11年から平成22年にかけて平成の大合併がなされ、自治法施行当時

から比較すると全国市町村数も10,505から1,718へと大きくその姿を変えてきた。



天皇皇后両陛下をお迎えし開催された記念式典

第61回町村議会議長全国大会開催

御船町議会議員 田端幸治

29年11月22日東京NHKホールにて「第61回町村議会議長全国大会～地方創生の実現を目指して」が開催され、式典には大島理森衆議院議長、竹下亘自由民主党総務会長他41名の国会議員、荒木康臣全国町村会長の出席の下全国から1800名の町村議会関係者が出席した。全国町村議長会桜井会長(宮城県利府町)より、全国町村は今日まで国民生活を支えるため、自然豊かな故郷を守ることに全力を傾注してきた、しかし今日地理的条件が不利な町村からは若者が去り、過疎化、高齢化が歯止めなく進んでおり近い将来生まれ育った町や村が消滅するのではと危惧されている。この国家的課題に対して国と地方が協力して取り組んでいかなければならない。そして町村議会自らの政策立案能力を高め、地域全体としての共同を深めながら、行政と協力して「地方創生」を進化させ実現

することで新たな地方の再生に取り組んでゆく覚悟と合わせて、地方の人口減少は議員のなり手不足という議会制度の根底を揺るがしかねない新たな問題を招き地方自治の活力低下につながる状況であり問題解決には、選挙制度の在り方、低額な議員報酬、地方議会議員の厚生年金制度への加入など地方議会制度の新たな改革に向けた取り組みが必要で、将来にわたり全国の町村議会がひとつも欠けることなく光り輝くことのできる社会を構築することが使命である。そのために我々全国町村議長会は自主・自立の精神を持ち議会改革に努め住民の信託に応えられる議会を構築していく旨の挨拶がなされた。

議事は、平成30年度の国の予算対策として、「東日本大震災および熊本地震からの復旧・復興と大規模災害対策の確立」な

ど35件、重要要望として町村議員のなり手不足対策として「地方議会議員の位置づけの明確化」など4件、要望として全国町村の約3割を占める豪雪地帯の振興等8件、特別決議として「地方創生のさらなる推進」等5件が提案され満場一致で決定された。

第61回全国町村議会議長大会に参加し全国の町村が抱える問題は共通しており、今一度地方議会の使命を御船町議会として再認識し更なる御船町の災害からの復興と発展へとつなげていきたい。



郡内議長が参加

上段左から 稲田議長(益城町)、川上議長(嘉島町)、緒方議長(甲佐町)
下段左から 田端議長、工藤議長(山都町)、荒木全国町村会会長(嘉島町長)、森上次長(上益城地域振興局)

「恐竜の郷」としてのまちづくり

— 北海道むかわ町立穂別博物館 —

御船町議会議員

中城峯雄

11月13日から15日までの日程で北海道の「恐竜の郷 むかわ町」、「写真の町 東川町」を視察研修した。

むかわ町立穂別博物館現地視察研修

設立の経緯

昭和50年に発見されたクビナガリュウの化石の発見が契機となり、昭和50年に開設された。

穂別地域で産出する古生物（化石）を材料とし「地球と生命の歴史を考える」総合博物館として現在に至っている。

観覧利用状況及びイベント情報

今年、国内最大となる体長約8m、体高約4mの草食ハドロサウルス科恐竜化石「むかわ竜」の全身骨格が一般公開され、人口8,500人の町に5千人超の見物客が訪れた。それまで年間1万人前後で推移していた観覧者が29年10月末現在1万7千人と大幅に増加した。

むかわ竜全身骨格化石の一般公開（2日間）やティラノサウルス「スコッティ」の全身骨格展示（9日間）等を実施し、多くの観覧者を集めている。

展示と収蔵資料

むかわ町穂別地区から産出

した動物化石を中心にして、実物化石及びその復元模型、地質資料等を展示している。化石は中生代白亜紀の海生生物が中心。

収蔵資料は自然史系、自然系、人文系等総数5,726点がある。

調査研究中の化石及び今後の展望

北海道大学総合博物館と共同で、「むかわ竜」の研究が進行中。近年中に記載論文を公表し、全身復元骨格を作製して公開する予定。

博物館を取り巻く地域おこし、観光ルートについて

29年3月むかわ版地方創生事業として、「むかわ町恐竜ワールド構想」を策定した。まちづくりの方向性として「恐竜ワールド」の世界観は他

地域に比べても優位性があり、「むかわ竜」の発見を契機として、博物館や発掘現場等の核となる施設やエリアの魅力向上を図り、段階的にまちづくりを推進するとしている。

研修を終えて

むかわ町は本町と比べ面積が約7倍、人口は約半分の町である。恐竜を核としたまちづくりは緒に就いたばかりであり、今後の取り組みを注視していきたい。

11月に御船町、北海道むかわ町、兵庫県丹波、篠山市の4市町で連携都市の調印を締結する予定であり、今後相互の連携を密にし、情報交換を行いながら「恐竜の郷」としてのまちづくりを推進していく。



学芸員より説明を受ける（むかわ町）

豊かな暮らしを実現するための制度づくり

—写真の町 東川町—

御船町議会議員 岩田重成

移住促進事業

14日、北海道の東川町の定住移住促進政策事業について研修視察をした。役場の玄関に入ると「いじゅうはじゅう」と大きな文字が目に入った。鉄道、国道、上水道の3つの道がないと言われ、何もないふつうの田舎町という印象だ。しかし、東川町は、今、北海道のみならず国内外からの移住者が増え、人口が1994年3月の6,973人から、2015年12月の8,105人に約14%増加している。全国の自治体の多くが少子高齢化のために人口が減少し、大きな問題になっている。御船町も同様である。この東川町は、東川らしい豊かな暮らしを実現するために、役場が様々な条例や制度を作り、人口減少にも対策を講じ、移住や子育て、暮らしのサポートをするなど、定住促進事業に力を入れている。また、景観住宅支援事業、新規起業家への支援事業、民間賃貸住宅支援事業、きた住まいる事業補助、二世帯住居事業補助金、

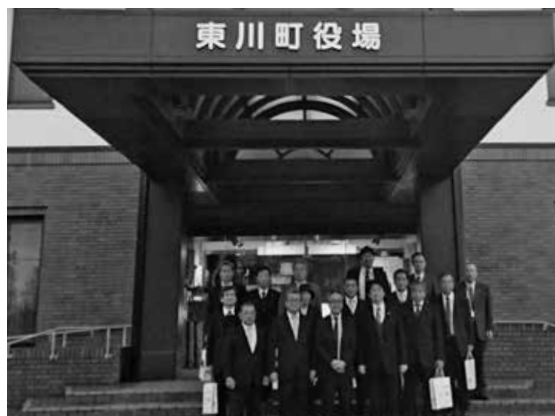
薪ストーブ設置補助金、高齢者世帯住宅リフォーム補助等、いろいろな事業に補助がある。

写真の町

東川町は、写真の町宣言から30年を迎え、写真文化の町づくりも目指している。写真文化の中心として世界の人々を繋ぐために、今年新たな交流の場として「高校生国際交流写真フェスティバル」を開催された。次代を担う高校生同士が写真文化を通じて会話を深めたり、外国人の観光客の誘致や日本語留學生の増加などで観光振興・国際交流の推進に寄与されている。

日本初「日本語学校」開設

日本語教育事業として旧小学校校舎を利用して、日本初の「東川町立東川日本語学校」を開校し、東アジア諸国を中心に15,000人を超える若い人々



写真の町 東川町庁舎前

が東川をPRし、経済発展と国際交流に大きく寄与している。

サポーター制度

ひがしかわ株主制度があり、東川町を応援しようとする東川町への投資（寄付）によって株主となり町づくりに参加し応援するサポーター制度である。この制度は、投資対象事業がいくつか設定され、目標金額が決まっているので投資しやすい制度だと思う。

まとめ

今回、人口8,000人の東川町を視察したが、活気があふれ、自然と文化が調和し、一歩前に出ている町という印象を受けた。御船町も恐竜博物館、吉無田高原、自然と歴史があり、中央道の開通も目の前だ。熊本地震の復旧が続いているが、東川町で研修してきたことを一つでも実行していきたい。



研修の様子（東川町）

かがやく



この町が、この高木が私の故郷

私はこの町に来て40年余り経ちます。妻との縁でこの町に住むことになったのです。来た当初は自分のことで精一杯で周りを見る余裕は有りませんでした。子どもが大きくなるにつれて親同士の付き合いが始まりました。断る術を知らない私は消防団、PTAと参加していききました。消防団では同じ年配の人達と話していると、その人達が地元について色々教えてくれ、愛着心を感じました。PTAでは多くの人達の話聞くことができ講演会や協議会、総会と、その場その場での話がとても楽しみになり、子育てに大変役に立つたと思います。中学校の卒業式に涙して子どもたちを送り出した事を今でもはっきりと覚えています。友達、仲間も随分増えました。

53歳から61歳まで教育委員になり、教育について素人の私はどうしたものかと迷いましたが「分からなくなったら子どもを中心に考えてごらん」と言ってくれた先輩先生の言葉に、心の中が吹っ切れた感じがしました。この言葉は後の私が子どもたちと接する時の基本となっています。学校訪問で子どもたちの元気な様子や先生方の頑張っている姿を見ることが出来ました。今私は地区の青少年健全育成の役をしています。昔は外で遊んでいた子どもたちは今は家の中でゲーム、携帯電話、SNS等と遊び方が変わり、親を含め私たちはいつの時代でも子どもが悪い方向へ行かないように、見守っていかねばなりません。



甘木 富永聖光さん

今、私はこの町が、この高木が私の故郷だと思えるようになりました。この町には古くから偉人がいて、史跡も残っています。山、川、緑そして人々が居心地良くしてくれています。ゴルフ場のティーグラウンドに立ち地域を見ると、復興が始まり、故郷が生きていると感じます。子どもたちが大きくなりこの町の何を変え、何を残すか楽しみです。

議会の予定 1月

4日	仕事始め
7日	消防出初式 成人式
9日	郡議長会定例会
12日	全員協議会(予定)
17日	議会(予定)
18日	視察受入 (沖縄県北中城村議会)
18~19日	九州中央自動車道 提言活動(東京、福岡)
23日	視察受入 (福岡県芦屋町議会)
24日	一般廃棄物処理施設 整備促進協議会
26日	あおぞら会議
30日	視察受入 (宮崎県三股町議会)

編集後記

早いものであとわずかです今年も終わりであります。

熊本地震後、二度目の正月を迎えることとなる。まだ、仮設住宅やみなし仮設住宅、仮住まいで迎える方も多いだろう。災害復興住宅の建設が完了するまではやむなく今の状態が続く。

また長期避難地域である中原団地は、ようやく復旧に向けて工事が始まったが、入居までにはまだ時間がかかる。

もう元の生活には戻れないかもしれないが家族みんなが安心して暮らせる環境になる日を一刻も早く願うばかりである。

周りを見渡せばようやく道路の復旧も始まった。通行止めや段差のある道路がまだたくさんある。また迂回路となつて傷んだ道路もある。早く元に戻って欲しいと今年の締めくくりとして願うばかりである。

田上 忍

議会広報編集特別委員会

発行責任者	田端 幸治
委員長	岩永 宏介
副委員長	中城 峯雄
委員	岩田 重成
委員	清水 聖
委員	田上 忍
委員	森田 優二